

03

クリエイティブ シティ・ヨコハマ

— 横浜市、神奈川県、日本
2004年～

“市民力と創造力”を発揮した国際港湾都市のブランド戦略の展開

Key Issue

横浜市は、日本で最も早く開港された国際港湾を有する都市のひとつである。開港から160年の歴史を持ち、様々な海外文化との交流によって、歴史的街並みや独自の文化を形成してきた。しかし、コンテナ埠頭化に伴う港湾空間の再編、臨海部における産業の高度化・サービス化が進む中で、港湾空間の魅力再生と新たな産業育成が課題となった。世界との窓口として発展してきた都市を、市民、企業、行政が、ともに育てていく創造性のあるまちづくりのあり方が求められた。

Project Approach

市民と企業を結ぶリビングラボ*1・プロジェクト

横浜市では、都市空間・環境を活用した市民協働型のオープンイノベーション*2のプラットフォームであるリビングラボ・プロジェクトを展開している。リビングラボの取り組みを、中小企業やベンチャー企業の事業創出の機会としてとらえ、生活・地域課題の解決に向けた新たなサービス・製品の開発だけでなく、地域のブランディング、シビックプライドの醸成、都市再生等をテーマとして新たな産業活性化を目指している。

文化芸術創造都市施策、MICE*3 戦略による都市のブランド戦略

横浜市は、歴史的建造物や公共空間等を活用し、創造的な活動を発信する拠点を運営することで文化芸術創造都市の形成を進めてきた。その中で、映像研究科を有する大学の誘致や、地域で活動するアーティスト・クリエイターの創造性と地元企業の高い技術力とをつなぐなど、創造的な産業の振興が図られている。また港湾空間に整備されたMICE 施設と都市機能の一体的な整備により、国際港湾都市としての競争力・ブランド力の向上を図っている。



港湾空間は、古い歴史的な建造物と調和した港湾再開発、MICE 施設の整備によって、新たな魅力を備えた都市空間に変貌しており、国内外から、多くの来訪者を引き付けている。
出典：横浜観光情報



特定の地域＝実生活空間において、地域課題解決の取り組みを創出する実験的活動の場として、リビングラボを構築している。



家屋の壁面に絵画を描くなど、生活空間への芸術の導入により、市民の創造性を高めている。

To the Next Phase

横浜市における官民協働の推進はAIやIoT等の先端技術の活用にもつながり、ケアプラン作成AI支援システムの開発、チャットボットを利用したごみ分別案内等の官民プロジェクトが進められている。また、横浜市における自治体の持つ様々なデータ活用への取り組みは、医療、子育てなどの新たな社会課題の解決、サービス創出への応用が期待されている。

Data

面積	みなとみらい21地区※ 186ha
事業主体	横浜市、民間事業者など
計画人口	みなとみらい21地区※ 居住人口1万人 就業人口19万人
主な導入施設	①YCC横浜創造都市センター、②東京藝術大学大学院映像研究科、③パシフィコ横浜など ※みなとみらい21地区は、紹介したプロジェクト活動の拠点的な地区であり、主な導入施設のうち①、②はみなとみらい21地区外に整備されている。

